

TOWN TOPICS

篠山市ホームページでもいろいろなまちの話題をお届けしています。ぜひ、ご覧ください。(トップページ「TOWN TOPICS」をクリック)



第55回「丹波篠山デカンショ祭」

県下最大の民謡の祭典「丹波篠山デカンショ祭」が、8月15日・16日の両日、篠山城跡周辺で行われました。祭りは、商店街に隠された数字を探し出すと景品が当たる「商店街deナンバーズ55」に始まり、「ヤグラ演奏会」や「大餅まき大会」など、多彩な催しが続いており、会場周辺は大にぎわい。また、毎年恒例の競演会や総踊りでは、櫓を中心に踊り手たちの大きな輪が幾重にも広がり、祭りのムードは最高潮に達しました。

ひと・まち 輝き

篠山鳳鳴高等学校「かるた部」
むろがき 室垣あきさん もみい なおみ 糸井奈穂美さん きしだ さわこ 岸田紗和子さん

大好きな篠山のまちで かるたを続けていく

兵庫代表で全国大会へベスト16

7月29日から31日に鳥根県で行われた全国高等学校総合文化祭「小倉百人一首かるた部門」に、兵庫代表チーム(8人)のメンバーとして出場されたのが、篠山鳳鳴高等学校「かるた部」の室垣あきさん、糸井奈穂美さん、岸田紗和子さんの3人です。同大会で兵庫代表チームはベスト16入りし、3人はチームの健闘に貢献されました。そもそも3人は5月に行われた県大会で6位以内に入賞。兵庫代表チームのメンバーに選ばれました。ほかに、同部の皆さんは、6月に行われた「全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会」兵庫県予選で見事、準優勝に輝かれました。



左から糸井奈穂美さん(2年)、岸田紗和子さん(1年)、室垣あきさん(2年)

集中力が必要な競技かるた

競技かるたは、百人一首の上の句が読まれると、畳の上に並べられた下の句の札を2人で取り合う競技。とても和やかなイメージがありますが、そうではありません。静かな空気は、上の句が詠まれると同時に「パーン」という下の句の札を取り合う音で破られます。大きな大会ともなると数百人もの選手が1つの会場に集まるため、その音と迫力は大変なもの。勝負は一瞬で決まり、集中力と判断力が勝敗を大きく左右します。かるた部顧問の浅井佳信教諭は、「かるた部は文化部ですが、競技の特性上、運動部のような雰囲気がありますね。部員たちも、部活動を通じて強い精神力と集中力を身に付けてくれています」と話されます。3人が競技かるたを始めたのは、小学1年生・2年生のとき。既に競技かるたをされていたお兄さんやお姉さんの影響を受けたのだそうです。競技かるたの魅力は3人にかがうと「1枚の札で勝負の展開が大きく変わってるところです。相手との駆け引きも楽しいですね」と話されます。また、日ごろの生活の中で絶対にあきらめず最後までやり抜くことや、集中して1つのことに取り組むことを心掛けていくという皆さん。自宅でもかるた取りの素振りなどを行われているそうです。「身に付けた集中力と暗記力は、



全国高等学校総合文化祭「小倉百人一首かるた部門」の様子。多くの選手がひしめき合います

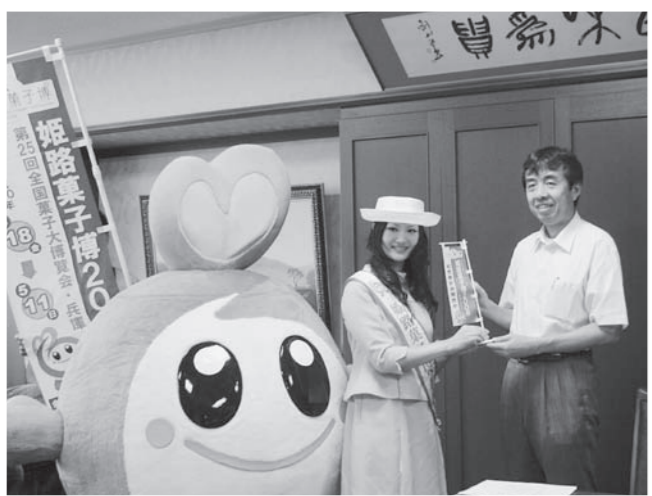
勉強するときや英単語などを覚えるのに役立ちます。また、精神を集中することで、自分自身を冷静に見られるようになりまし」と、競技かるたから学んだことを話されます。

篠山のまちでかるたを楽しむ

3人の皆さんに将来の抱負をうかがうと「来年は全国で決勝トーナメント出場(ベスト8入り)を目指します」と意気込まれる皆さん。「これからは競技かるたを通じて自分の力を伸ばしていきたいです」。続けて「篠山市は他の市町村と比べると競技かるたが盛んな地域。競技かるたの大会などを通じてもっとたくさんの方に来てもらい、篠山のまちを知ってほしいですね。わたしたちは、これからも競技かるたを続けていきます。そして、大好きな篠山に住んで、いつまでもかるたを楽しみたいと思います」と元気に話されています。

ふれあいスイカ祭り

ふれあいスイカ祭りが7月28日、神田神社内広場(大山上)で行われました。スイカの早食い競争では、参加者たちがよく冷えたスイカを口いっぱいにはお張りながら、そのみずみずしい食感に舌鼓。ほかにも、スイカの種飛ばし競争や重さ当てクイズ、品評会などが行われ、参加者たちは、大山区の特産「大山スイカ」を使った盛りだくさんの催しを楽しんでいました。



姫路菓子博のPRに「ひめか」が訪問

平成20年4月18日から5月11日まで姫路城周辺で開かれる「姫路菓子博2008」(第25回全国菓子大博覧会・兵庫 兵庫県実行委員会主催)。同菓子博を宣伝するキャラバン隊が8月3日に市役所を訪問しました。菓子博レディーやマスコットキャラクターの「ひめか」らが、金野副市長に菓子博への来場と協力を呼び掛け、のぼりを手渡しました。